

**令和5年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について**

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

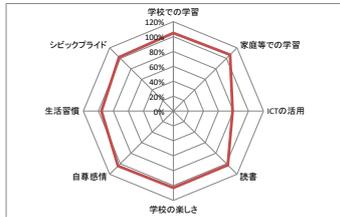
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項についての理解は高い。情報と情報を結んだり取り出すこと・自分で文章を書くことが不得手である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日頃よく使われている歌謡についての問題・文章の種類とその特徴の問題・送り仮名問題	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えや伝わるように書く問題・情報と情報を関係づけて読む問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	伴って変わる数量の特徴を読み取ることへの理解は高い。データを活用したり、回答を式や文章で記述することが不得手である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	比例や反比例など、変化の特徴を読み取る問題・筆算の仕方についての問題	
	努力が必要な問題	図形の意味や性質についての問題・データを活用して考察する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「学習した内容について、分かったことやよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」の項目は90%以上となっていることから学習時の振り返る姿勢が育っていると考えられる。
- ・「学校の楽しさ」「自尊感情」についての項目は、すべて85%以上であることから、学校において自己実現できている部分大きいと考えられる。
- ・「学習時間以外でのタブレットの活用」についての項目が低い。
- ・「学校以外での読書時間」についての項目が低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・全体的に学習について真面目に取り組んでいる様子が見えるが、国語・算数科の学習において、様々な情報を精査しつつ、自分の考えを記述し考えをまとめていくといった学習に今後も取り組んでいく。また様々な教科の中で機会を捉えてタブレット学習を推進していくことも重要な課題である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学習時間以外での読書をする習慣がなかなか身につけていないという現状がある。読書の楽しさを伝え、学校と家庭とで連携して、児童の読書習慣を形成していきたい。